

ごあいさつ



管理者 三次市長
村 井 政 也

組合消防設立40周年を迎えて

備北地区消防組合は設立40周年を迎えることができました。

本組合は、地域住民の安全を確保することを目的として、昭和45年に旧三次市と旧庄原市が共同で三次地区消防組合を設立して以来、構成市町村の変遷を経ながら、現在は、平成の大合併により新三次市及び新庄原市の二市で構成する行政組合として発展し、管内面積2,025平方キロメートルという広大な面積を管轄しております。

これもひとえに、構成市をはじめ消防関係機関及び地域の皆様のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

行政運営については、限られた行財政資源の中で、様々な手法を活用して不断に行政改革に取り組み、簡素で効率的・効果的な行政体制を確立することが必要ですが、「備北地区消防組合」は常に住民に身近な消防として、住民ニーズに応じた行政サービスを提供しております。

しかしながら、今後、各地域で高齢化が一層進展し、交通網の発達などにより日常の生活圏は益々拡大いたします。また、近年、相次いで発生する自然災害や地域社会の変化による災害態様は、複雑化・広域化の傾向にあり、消防防災行政を取り巻く状況は大きく変化しており、住民の安心・安全を維持向上させていくためには、総合的な消防防災行政を積極的に整備拡充していく必要があります。

このような中、関係各位のご理解とご協力をいただき、30メートル級はしご車、救助工作車及び高規格救急車の更新業務を計画的に実施しており、今後は、新通信指令施設の整備事業、消防無線のデジタル化などの整備を推進する必要があります。ソフト面では、救急救命士を継続して養成するなど、専門的で高度な能力を有する職員の育成・確保を進めているところであります。

本組合といたしましては、直面する諸課題を的確に捉えたきめ細かな消防行政を推進するよう、全力を挙げて取り組んでまいります。

結びに、構成市をはじめ消防関係機関及び地域住民の皆様方の今後一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ごあいさつ



組合議会議長

伊 達 亮 詞

組合消防設立40周年を祝して

組合消防設立40周年を迎えるにあたり、備北地区消防組合議会を代表して、心からお祝い申し上げます。

当消防組合は、広島県の約4分の1の面積を管轄し、1本部3署7出張所211名の職員を擁し、発足以来関係各位のご尽力により組織・人材・施設等あらゆる面において着実に発展してまいりました。

しかしながら、近年、地球温暖化や異常気象による自然災害をはじめ、災害が大規模化・多様化し、さらに少子高齢化の進展による救急ニーズの高まりなど消防を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、平成24年度の中国横断自動車道尾道・松江線の開通による一般車両の往来から地域経済の促進が期待されるものの、その半面、交通事故等の多発が懸念されているところです。

こうした中で、備北地区消防組合に対する住民の期待は年々高まっており、その役割と責任は大なるものがあります。

組合議会議長として、地方自治体の主旨にもある住民の福祉の増進、つまり安定した生活環境の確立という観点から人命を尊重することを第一とし、「災害に強い地域づくり」を目指し、さらなる防火・防災体制の整備が図れるよう、最大限の努力を傾注する所存であります。

組合消防設立40周年を契機とし、先輩諸氏の功績を顧み、消防職・団員のより一層の研鑽と団結を強固にされ、管内住民が安心して生活できる街づくりをご期待申し上げます。

最後になりましたが、当消防組合を構成する三次市・庄原市のますますのご発展と関係各位のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、発刊によせてのご祝詞といたします。

40周年記念誌発刊にあたって



消 防 長
新 川 康 正

40周年記念誌発刊のことば

備北地区消防組合は、昭和45年に旧三次市と旧庄原市による組合消防として業務を開始して以来、このたび記念すべき40周年の節目を迎えました。

これもひとえに、構成市をはじめ消防関係各位の深いご理解とご協力、先輩諸兄の並々ならぬご尽力の賜物であり、改めて敬意と感謝を申し上げます。

発足当初、1本部2署職員46名をもって業務を開始して以来、構成市町村の合併広域化や住民ニーズの多様化などに伴い、現在では、1本部3署7出張所職員211名、消防車両53台を有するまでに成長し、各消防署・出張所庁舎の仮眠室等の改修による職場環境の整備や、高度で専門的な知識を有する救急救命士や予防技術資格者の養成、消防緊急通信指令施設の更新や無線デジタル化への移行など、あらゆる分野において消防防災体制の更なる充実強化に努めております。

さて、近年の消防行政を取り巻く環境は、少子高齢化や核家族化など社会構造の変化による救急需要の大幅な拡大や、本年7月に発生した庄原市豪雨災害にみられるゲリラ豪雨など、特異かつ複雑なものとなっており、これまで以上に消防行政に対する役割が期待されているものと強く認識しているところです。

また、平成24年度には中国横断自動車道尾道・松江線の全面開通を控え、「人・物・文化」交流の活性化が期待される一方、各種災害事案の増加が予想されます。

今後も更に、災害の未然防止・被害の軽減はもちろんのこと、住民の負託に迅速かつ的確に応えるべく、地域との連携を図りながら、より「安心で安全な街づくり」を目指し、全力を傾注してまいります。

なお、この記念誌は、組合消防設立40年の軌跡を編集いたしました。今後とも、関係各位の一層のご指導とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。